

日本最古?? 酒の自動販売機

今回は、二戸歴史民俗資料館収蔵の貴重な資料の中で、調査研究が進んだ結果その価値が認められ、国の遺産登録（重要科学技術史資料Ⅱ愛称・未来技術遺産）までのぼりつめた、いわば「資料のシンデレラ物語」の紹介です。

資料名は、「酒の自販機」。製作されて約百年たち、今までは「日本最古、唯一の酒の自動販売機」としてきましたが、それが今回、国によって認められたのです。しかし、十年前までは照明も当たらない隅に、ひっそり置かれていました。

五銭白銅貨専用のゼンマイ仕掛けで約三十秒間作動し一合の酒が出る仕組みです。この白銅貨の最初の発行は今から百二十年前の明治二十二年です。

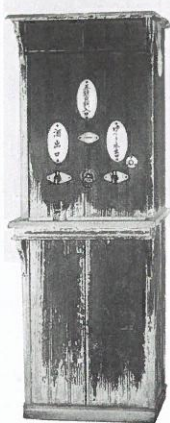
大正初めの新聞広告に「自動販売器」



があります。そのキャッチコピーは、「見よ。独りで金もうけする自動器」。実は、明治二十一年に「たばこ自動販売機」が造られており、五銭白銅貨はその翌年発行ですから、酒の自動販売機は明治中期の発明・製造であつてもおかしくはありません。

集英社刊『自動販売機の文化史』では日本最古と称され、自動販売機関係の文献には、当館の販売機の写真が日本最古の物として紹介されています。この自動販売機を一目見ようと大学教授や研究者が来館しており、国立科学博物館からも二度来館しています。その調査の結果、日本の産業技術史資料として極めて重要なものであることが確認されて「未来技術遺産」に登録されることになり、現在登録手続きが進んでいるところです。登録台帳の記載に、「現存する日本最古の飲用自動販売機」とあります。

この酒の自動販売機は明治末、南部美人の店で使用したとの証言があり、評判を呼んだものでしょう。是非資料館に来館して「未来技術遺産」をご覧ください。（寄贈者 株式会社南部美人 久慈秀雄氏）



国立科学博物館選定の重要産業技術史資料で飲料自動販売機登録候補の第1号になっています

こみゆにTeaたいむ

25 秋目

折爪岳のヒメボタルを観賞してみませんか

全国各地からホタルの情報が入って来るようになりました。折爪岳のヒメボタルも7月10日から20日ごろが出現時期と予想されています。折爪岳のヒメボタルの発生は、寒暖の差により通常の時期よりも5日前後、時期がずれることがあります。発生する数もその年により相当の差があります。今年はたくさん飛んでほしいものです。（7月15日前後が見ごろかな？）簡単にヒメボタルの発生する日を知る方法として、市街地の里山にヒグラシの鳴き声が聞こえ始めたころです。

折爪岳のヒメボタルは、体長約6ミリから9ミリでホタルの中では一番小さく幼虫は2年をかけて成虫になります。卵や幼虫・さなぎも点滅はしませんが光ります。点滅しながら光るのは成虫だけで、光を放ちながら空を飛びます。飛ぶのは雄だけで雌はハネが退化しているため空を飛ぶことができません。雄は雌を求め発光しながら空を飛びます。光で全てのホタルがコミュニケーションをとって生活しているのです。

午後7時30分、折爪岳山麓一帯で、ヒグラシがピ

タリと鳴き止むと15分ほどで森の暗い葉陰からピカピカとホタルの光が見え始め、その数が徐々に増えて波のような光となり、そして一斉に飛び始める「夢のような光のショー」が始まります。

ヒメボタルの大群を見ながら、そっと片手で小さな光を一つ取って、両手で囲い込み「強力に光るヒメボタル」を親子で一緒にみてほしい。

命の不思議、光のコミュニケーション、ヒメボタルの住む折爪岳は、二戸市にとって貴重な自然の宝です。今年の夏は親子で体感してみたいかがでしょうか。

「折爪岳ヒメボタル親子で観賞会」を7月15日（水）に開催いたします。お電話でのお申込みをお待ちしております。



ヒメボタルの乱舞は一見の価値あります

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線653）まで

賑やかにしたいと思います。